

令和7年度 学校評価総括表 伊丹市立みずほ幼稚園

教育目標		心豊かに、健やかに生きる子供の育成					
重点目標		業務改善に取り組み、教職員が心身共に健康を保ちながら、子供主体の保育を推進する。 (1)保育の質の向上を図る(2)拠点園(Dブロック)としての教育の推進(3)地域や保護者に開かれた教育の推進(4)子育て支援教育の実践					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	育成 自分で考え決定して行動する子供の	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ「主体性を尊重し、支える保育の創造」を研究の視点とし、自ら考え決定して行動する子供の育成に努める。 ・職員全体で連携し、チーム保育の実践力の向上につながるよう、子供の姿を振り返り、共に環境の再構成に取り組む。 ・保育計画には、自分で考え決定して行動するための環境の構成のポイントを明記し、実践に活かす。 ・園内研究会や市内公開保育を通して、互いに学び合い、自園の保育に取り入れる。また、地域の就学前施設や小学校へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の短期指導計画の前後に環境の再構成に取り組む時間を設ける。また、保護者アンケートの研究に関する項目の割合が80%以上になる。 ・短期指導計画やエピソード記録の子供の姿から、環境の構成のポイントを検証し、視覚化する。 ・園内研究会と拡大研修会を実施し、共同研究園の園内研究会へ積極的に参加する。南ブロックの研究発表に向けて取り組み、自分で考え決定して行動する子供の姿につながる環境の構成について学びを深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の環境について園務日程に位置づけ、定期的に話し合う機会をもち、子供の学びを支える環境の再構成ができた。 ・南ブロック共同園と共に、短期指導計画を活用し、環境の構成のポイント表を検証したことで、時期や学年によって環境の構成が変化していくことや、いつでも大切にしなければならない環境の構成があるということが再確認できた。 ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の環境について、会議に参加しない職員も含め、全職員で共通理解が図れるよう、視覚化し職員室内に掲示する。 ・引き続き環境の構成のポイント表を用いて、子供の育ちを確かめたり、教師自身が保育を振り返ったりする際にそれぞれの教師が意識して活用する。 ・今後も、市内の幼稚園と互いに学び合い、自園の保育に取り入れられるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育だけではなく、研修や研究を通して資質向上に努めていることに感心する。 ・市内の公立幼稚園とたかめあっていることが良い。
	推進と充実 インクルーシブ教育・保育の	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実に努める。 ・全職員で連携を図り、個別指導計画に基づいた一貫した支援を組織的に行う。 ・よりよい支援や共に育ち合う保育を行うため、チーム会において職員間で必要な手立てを考え合う。 ・にじいろ保育に係る取り組みについてにじいろだよりやホームページを通して発信し、全保護者の理解と啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で共通理解を図り、よりよい支援について共に考え合う場として、にじいろチーム会・各クラスチーム会を定期的に実施する。 ・年間7回、計画的に「にじいろだより」を発行する。また、にじいろ保育に係る取り組みにおける定期的かつタイムリーなホームページの更新を行う。 ・保護者アンケートのインクルーシブ教育・保育に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画を基に全職員で共通理解を図り、組織的に支援を行った。また、職員会議やにじいろ、及び学年のチーム会、保育前後の打ち合わせ等を通して情報共有を図ったり支援方法について話をしたりし、職員間で連携を図り合いながら支援にあたることができた。 ・年間7回のにじいろだより発行、また、にじいろ広場を行う毎にホームページでタイムリーに発信した。 ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得ることができたが、一部、肯定的ではない評価もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画に基づいた一貫した支援を行うためには、職員間での共通理解と連携が欠かせない。今後も引き続き、全職員で組織的に支援を行えるよう職員間での情報交換、情報共有、共通理解を大切にし、よりよい支援について共に考えながら取り組んでいく。 ・一人一人の発達や課題に応じたきめ細かい支援を行うと共に、子ども同士が共に育ち合える環境や関わりを大切にし、個と集団の両面で子供の育ちを支えていけるよう引き続き取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観や子ども同士のかかわりの様子から、どの子供も、共に育ち合っていることが感じられる。 ・今後も公私立就学前施設の拠点として進めていくことに期待する。

豊かな心・健やかな身体	人権教育の推進・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子供、保護者の人権意識を啓発し、互いに尊重し認め合える環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己も他者もがかけがえのない存在であると共に、友達や家族等、身近な人に感謝の気持ちをもてる大切さを保育で意識する。 ・「身近な生活の中で差別や偏見に気づき自分自身を見つめる」というテーマのもと、個人懇談や学級懇談会等を行い、保護者と教師が共に学び合う。 ・人権の花運動に取り組み、感謝することの大切さや生命の尊さを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの人権教育に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 ・子供の実態や個々に応じた関わり方、保護者への啓発内容・方法等を話し合い、全職員で共有しながら自己や友達が大切に思えるような関わりを意識していく。 ・人権教育や他者を思いやることにつながる絵本や紙芝居等を計画的に保育に取り入れる。 ・人権の花の生長を通して、子供が世話をする喜びや生長を楽しみにしたり、感謝の気持ちをもったりできるようになる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいては、90%以上が肯定的な意見であった。 ・子供の実態や関わり方について職員で共有し、子供達に感じてほしいことや気付かせたいことについて意識しながら保育にあたることができた。 ・人権研修では、絵本『ことばえらびえほん ふわふわとちくちく』を使って子供達の関わりや日頃の生活等について保護者の方と振り返ったり、子供達とも考えたりする機会となった。 ・人権の花運動を通して、親しみをもって世話をしたり、生長を喜んだりする等、生命の尊さを感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、子供の姿を全職員で共有しながら、自己も友達や周りの人も大切に思えるような関わり、声かけを意識していく。 ・人権研修の機会だけでなく、日頃の生活の中でわかりやすい教材や絵本等を取り入れながら子供達が他者を思いやり親しみをもったりできるような保育を行っていくようにする。また、保護者と共に考える機会を作り、保護者啓発も継続して行っていくようにする。 ・今後も、動植物との継続的な関わりを通して、心を動かし、生命を大切にすることを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培や生き物とのよいかわりができる環境を工夫されていることが素晴らしい。 ・引き続き、実体験を通して、子供も保護者も人権意識を高める保育を進めてほしい。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な体力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に必要な経験は子供の興味関心から継続的な運動遊びの機会を通して得られるようにする。 ・みずほ幼稚園ならではの坂のある園庭やホールも活かし、身体を動かして遊ぶ機会を作っていく。また、室内用の大型遊具も活用していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの体力の向上に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 ・保育活動の中で、歩いたり、にじいろ保育の教材を活用しながら楽しく身体を動かしたりする機会をもつ。 ・粗大運動や小集団での運動遊びが好きになる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、90%以上が肯定的な意見であり、徒歩で登降園する姿が増えたり、地域に徒歩で出向くことも積極的に取り入れたりしながら体力向上を図る機会をもつことができた。 ・今後も、小集団での運動遊びやにじいろ保育教材を活用しながら身体を動かす機会を意識していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で楽しく身体を動かす機会を作ったり、園外や地域に積極的に徒歩で出向いたりすることを取り入れながら体力向上を図っていく。 ・今後も、拠点園の教材や遊具等を活用したり、小集団・粗大運動等が十分に楽しめるようにしたりする等、意識的に運動遊びを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時の自転車が多く見られる。親子で歩く機会をもつ必要がある。
	基本的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほけんの話」や環境を通して自ら基本的な生活習慣を身につけようとする子供を育てる ・幼児の睡眠の大切さを伝える。 ・保護者啓発として、「ほけんだより」の配信や、掲示板を使って保健活動の様子を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回「ほけんの話」をする時間を設ける。 ・ほけんだよりや掲示板を活用し保護者啓発に努め、「けんこうカレンダー」等で家庭で規則正しい生活習慣に取り組む機会をつくる。 ・保護者アンケートの基本的な生活習慣についての啓発に関する項目において肯定的な評価が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほけんの話を通して、子供が自ら気付いたり意識したりし、必要感をもって取り組む姿が見られた。 ・ほけんだよりに加え、今年度は掲示板(ホワイトボード)を活用して保護者啓発を行ったことで、保護者が登降園時に興味をもって掲示板を見る姿があり、効果的であった。また、幼児の睡眠の大切さについては、アンケートを実施して実態を把握し、ほけんだよりを通じて保護者啓発を行った。 ・保護者アンケートにおいて、肯定的な評価が100%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、月1回の「ほけんの話」を取り入れ、子どもの実態や課題に即した保健指導を行っていく。 ・ほけんだよりやけんこうカレンダーに加え、引き続き掲示板も活用しながら保健活動の様子を保護者に伝え、啓発を図り、家庭でも意識して取り組んでいくことができるよう働きかける。 ・幼児の睡眠の大切さについては、引き続きほけんだよりや掲示板等を通じて保護者に啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で行うことと集団生活で行うことが混在しており、家庭での教育力必要と感じる。 ・睡眠、生活リズムが大人の流れになっていないか心配。

開かれた信頼される園づくり	拠点園としての役割の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・Dブロック拠点園として、研修研究、架け橋期の教育、インクルーシブ教育 ・保育を推進し、縦横の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内施設で連携を図りながら皆で学び合い、高め合う機会として、研究、架け橋期の教育、インクルーシブ教育・保育における学びの場を計画、実施する。 ・たよりやホームページを通して、拠点園事業に係る取り組みに関する情報を発信し、ブロック内へ啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点園事業に係る取り組みをブロック内に案内し、他施設のさらなる参加につなげる。 ・拠点園事業に係る取り組みにおけるたよりの発行、定期的かつタイムリーなホームページの更新を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度行った各種拠点園事業において、すべての会でブロック内の施設から参加があり、共に学び合うことができた。特に今年度から始まった架け橋期の教育地域部会については、小学校も含めたブロック内全施設の参加があり、ブロック内でつながりを築き、架け橋期の教育保育について考え合うきっかけの場となった。 ・保護者アンケートは肯定的な評価のみだったことから、たよりやホームページ等を通して、本園の拠点園としての役割やその推進が保護者にも浸透してきている様子がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点園事業として行う各種研修会については、今年度の反省を踏まえて内容等を検討しながら年度当初に計画し、早めにブロック内に周知することでさらなる参加につなげ、共に学び合える場や保育をブロック内に提供、提案していく。 ・架け橋期の教育地域部会については、初年度となる今年度の取り組みを踏まえて次年度の内容を計画し、学びを積み上げていけるようにする。また、他ブロックの取り組みも参考にし、より学びが深まる会になるよう工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育に加えて、様々な拠点園事業をされている。 ・公私立就学前施設や学校とのつながりは心強い。大変多忙な中なので、精選をしてもよいのではないかと。
	教育活動への理解推進	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画は園全体で撮り合い、伝えたいポイントを絞って配信する。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や研究の取り組みと共に、タイムリーな環境と関わる子供の姿や学びを視覚化したものを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分担しながら、定期的に配信を行う。 ・保護者、地域に幼児教育や子供の学びを発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配信した動画を通して、家庭内で親子の会話に繋がったという声があったが、見ていない家庭もあった。 ・研究リーフレットの掲示やドキュメンテーションの配信を通して子供の学びを発信してきたが、園の取り組みや子供の学びが伝わりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の学びをタイムリーに配信できるように、全職員が常に撮影機器を所持し、すぐに撮影ができるようにする。 ・降園時や懇談等配信したものを通して、保護者と子供の姿や学びについて話す機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に発信が当たり前になってきているので、効果は受け止め側によって異なると思う。精選してもよいのでは。
	子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・園、家庭、地域で連携した子育て支援の推進を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・架け橋期の教育を進めると共に、小・中学校、高校、地域で園児が過ごす機会をもつ。 ・保護者同士が交流を深め、縦と横のつながりができるよう、オープンスクール、誕生会二部保護者参加の機会を設ける。 ・地域の幼児教育センターとして、週一日保育後引き続きの園庭開放やみんなのひろば事業を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・架け橋期の教育を推進すると共に、小・中学校や高校、地域と関わりをもつ。 ・オープンスクール、誕生会二部へ延べ100人を越える保護者参加となる。 ・保護者アンケートの子育て支援に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の推進に基づいた近隣への出向きや、児童、生徒、関係の方との関わりの機会がもて、子供達にとって充実したものとなった。 ・新たに、年度はじめのオープンスクール、誕生会二部や園児との製作活動を行ったが、想定より保護者の参加は少なかった。 ・アンケートでは肯定的な評価が100パーセントであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性に応じた園、家庭、地域で連携した教育推進を計画的に行うと共に、icuco システム、画像を活用した教育の理解推進に取り組む。 ・保護者参加の機会について再検討する。 ・教育理解推進を通じた子育て支援の在り方を探り、自園の実態に応じた計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者がいろいろな人とかかわり、視野を広げ、一緒に子育てをしていくことが少なくなっている。サークルやボランティア等に積極的に参加してほしい。
	安心・安全な園づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・災害、緊急時に対応できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検及び日常のヒヤリハットを共有し、環境改善を行う。 ・様々な事象を想定した訓練、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境維持、改善を行う。 ・計画的に訓練を実施し、対応力をつける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検、日常のヒヤリハットを共有し、未然防止に取り組めた。 ・計画的な訓練、振り返り、緊急時の体制の計画改善も行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、様々な事象を想定した定期的な訓練、日常の安全意識の向上からの環境設定に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細やかに適切に実施されている。

学校関係者評価総括

- ・職員が尽力されていることが、子供の成長につながっている。充実して過ごしている表情や行動が一人一人から感じるので、来年度も引き続き地域の教育を担ってほしい。
- ・就学前と一緒に悩んだり、がんばったりした保護者の仲間は子供が大人になってからもつながり、地域で活躍している。時代は変わっているが是非、保護者同士も良いつながりや、我が子だけではないつながりも大切にして活躍してほしい。

次年度に向けた重点的な改善

- ・今年度まで積み上げた研究でわかったことを保育に活かしながら、引き続き、「感じ、考え、決定して行動する為の環境の構成」を進める。
- ・今年度の成果と課題や来年度の実態を踏まえた保育の在り方を実践していく。
- ・引き続き、就学前施設や学校とのつながりを子供の育ち、教育の資質向上につなげる。
- ・人権意識を高め、一人一人が互いに大切にしたい、子供、保護者、職員、地域とつながりを深め、共に育ち合う機会を組織的、計画的に実施する。
- ・業務改善に努め、心身共に健康で安心、安全な教育環境をつくる。